

総合小売業から「国内外コンビニエンスストア事業」に フォーカスした事業構造改革を推進

国内外CVS事業への集中を軸に グループ事業構造の最適化へ

当社は2016年3月に「グループシナジーを活かした日米コンビニエンスストア事業を成長戦略の柱とする」ことを発表し、総合小売業からの方針転換を明確に打ち出しました。同年5月に井阪隆一が社長に就任して以降は、2018年にSunoco LPからのコンビニエンスストア(以下、CVS)事業などの一部事業取得や、2021年のSpeedwayの買収を実行する一方で、イトーヨーカ堂(以下、IY)の構造改革や事業ポートフォリオの見直しに加え、グループ事業の最適化の検討を開始するなど、企業価値・株主価値の向上に努めてきました。

2021年7月には「中期経営計画2021-2025」を公表し、「セブン-イレブン事業を核とした世界トップクラスのグローバル流通グループ」を2030年の目指す姿として掲げました。同時に、目指す姿を体現するべく事業ポートフォリオの見直しを開始しました。多様な事業領域を総合的かつ多角的に経営する必要性の観点から、翌2022年5月からは独立社外取締役が過半数

を占める取締役会で、あらゆる可能性を排除せず、グループ企業価値の向上に資する各事業の戦略的取り組みについて再評価を実施しました。

2023年3月、当社はこれら議論の結果を「中期経営計画のアップデートと戦略再評価の結果」として発表し、グループの強みを活かす観点から、2030年の目指すグループ像を「セブン-イレブン事業を核としたグローバル成長戦略と、テクノロジーの積極活用を通じて流通革新を主導する、「食」を中心とした世界トップクラスのリテールグループ」に決めました。これにより、グループの中長期的成長に向けて方向性がより一層明確化されました。同年10月にはスーパーストア(以下、SST)事業の抜本的変革のマイルストーンを公表しました。また、独立社外取締役のみで構成される「戦略委員会」を設置し、グループ重点戦略に関する進捗状況のモニタリングを実施するとともに、中長期的な企業価値・株主価値の最大化に向けた最適なグループ事業構造・戦略的選択肢(IPO・スピンオフ等)に関する包括的かつ客観的な分析・検証を開始しました。

■グループ戦略と成長の軌跡

